



真鍋庭園に展示されている「天陽の家」。放送終了後も見学者が訪れている (15日)

なつぞら観光5倍増も

管内入り込み 神田日勝美術館など

十勝が舞台のNHK連続テレビ小説「なつぞら」の放送が終了したが、管内の観光地では入り込みや売り上げが大きく伸びるなど「なつぞら効果」が如実に表れている。神田日勝記念美術館(鹿追町)の来館者は約5倍に急増、他の施設も前年を1.3割程度上回っている。関係者は放送終了後も、効果が継続することを期待している。

ツアーは来年? 継続期待

農民画家の神田日勝は主人公に影響を与える山田太陽のモデルとされ、一躍全国区に。神田日勝記念美術館の4~9月の来館者は2万6959人で前年同期の5倍、すでに昨年度実績(8115人)の3倍超となっている。8月には天陽を演じた吉沢亮さんの講演もあり、大勢のファンが来場。小林潤館長は「ツアーを組みたいという旅行会社が今もある。今後も日本全国から多くの人に来館してもらえるのでは」と期待する。天陽の家やアトリエなどが展示されている真鍋庭園(帯広市)では7月下旬の公開以降、わずか2カ月間

で約5万人が来場した。うち1割が庭園も見学している。真鍋憲太郎代表は「遠方の人は放送翌年に来ると旅行会社から聞いている。来年の入り込みにも期待」

と強調。セットの公開は12月1日までで、来年のオープンと同時に再公開する予定だ。よつ葉乳業十勝主管工場(音更町)の見学施設「おいしさまつすく館」の見学ツアーは放送開始から9月末までに、3割増の7346人が参加。小林正人総務部長は「見学者の中には必ず、なつぞらの話をする人がいる」と話す。パネル展示や関連商品の販売を手掛ける帯広駅エスタ東館2階の来場者は、4

月からの累計で2万8150人。売り上げも大きく伸びた。ロケ地巡りの一環で訪れる人が多く、10月に入っても週末は盛況とする。ロケ地の陸別町にある「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」は3割増の約8000人が乗車。放送期間中、なつぞらのラッピング車両も話題を呼び、2万5000人ほどが訪れた。同町の道の駅は物販の売り上げが2割増、入り込みは5倍に激減した」といい、顔出し

パネルを設置して話題性をつくることにしている。日銀帯広事務所などは放送前、「なつぞら」の放映に伴う経済効果を95億円と試算。このうち宿泊や外食などの直接効果は63億円としていた。(川野達介)

パネルを設置して話題性をつくることにしている。日銀帯広事務所などは放送前、「なつぞら」の放映に伴う経済効果を95億円と試算。このうち宿泊や外食などの直接効果は63億円としていた。(川野達介)

パネルを設置して話題性をつくることにしている。日銀帯広事務所などは放送前、「なつぞら」の放映に伴う経済効果を95億円と試算。このうち宿泊や外食などの直接効果は63億円としていた。(川野達介)